

■ 過去の災害におけるアーカイブ等の拠点及びモニュメント一覧

参考

基礎情報						機能										設置の意図・経緯
						アーカイブ					遺構・モニュメント			レクリエーション機能	ソフトコンテンツ	
災害名称	施設名称	施設規模	施設の種類	事業主体	管理主体	文献・写真・パネル資料	当該災害以外の資料	資料の収集	映像等デジタル資料	WEB等による情報発信	遺構	モニュメント	碑	公園緑地広場	語り部、セレモニー等のイベント	
阪神淡路大震災(1995年(平成7年)1月17日)	阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター	西館(防災未来館): 延床面積8,557.69㎡ 東館(ひと未来館): 延床面積10,197.08㎡	博物館	兵庫県	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構	●	●	●	●	● (映像、文献等)		●			●	<ul style="list-style-type: none"> ・設置意図は、阪神・淡路大震災の経験を語り継ぎ、その教訓を未来に生かすことを通じて、災害文化の形成、地域防災力の向上、防災政策の開発支援を図り、安全・安心な市民協働・減災社会の実現に貢献することとしている。また、「減災社会の実現」と「いのちの大切さ」「共に生きることの素晴らしさ」を世界へ、そして未来へと発信し、世界的な防災研究の拠点として災害全般に関する発信地となることを目指している。 ・1995年の10月に政府の「阪神・淡路復興委員会」が、復興特定事業として阪神・淡路大震災記念プロジェクトを提言し、その後、国、県、神戸市、民間でプロジェクト検討委員会が設置され、その後に設立された(財)阪神・淡路大震災記念協会で、学識者、民間団体代表、行政代表により、基本構想が計画されている。1999年に有識者、行政などによる「阪神・淡路大震災メモリアルセンター構想推進協議会」が設置され、「阪神・淡路大震災メモリアルセンター整備構想」が策定、実施された。
	神戸港震災メモリアルパーク	全体10.6ha	遺構保存部:係留施設 広場部:港湾緑地	神戸市	神戸港復興協会(指定管理)	● (主にパネル展示)			●		●	●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災の被災状況を後世に伝えるために、被災したメリケン波止場の一部(岸壁60m)をそのままの状態で見学できるように整備した公園で、波止場の保存のほか、神戸港の被災の状況、復旧の過程等を記録した模型や映像、写真パネル等の屋外展示施設を整備している。
	北淡震災記念公園	3.4ha	博物館	建物等:兵庫県 園地等:北淡町(現淡路市)	北淡町(現淡路市)	●			●			●	●	●	●	●
新潟県中越大地震(2004年(平成16年)10月23日)	長岡震災アーカイブセンターきおくみらい	延床面積700㎡	博物館	中越メモリアル回廊推進協議会	社団法人中越防災安全推進機構	●	●	● (震災直後は、市民団体やNPOと連携して主体的に収集していた。現在は寄贈された場合には受け入れることができる)	●						●	<ul style="list-style-type: none"> ・先進のIT技術を活用した知的情報集積拠点として整備されている。 ・震災地図の上を歩き、新潟中越大地震で起きたことを知る事ができる「震災MAP」等、デジタル技術を活用した展示・体験施設が整備されている。
	川口きずな館	床面積162㎡	博物館	中越メモリアル回廊推進協議会	社団法人中越防災安全推進機構	●			●						●	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県中越大地震からの復興の中、築かれてきた絆の記録を展示し、また新たな絆を育て、豊かな地域づくりを進める拠点の場としている。 ・既存の川口運動公園内に設置されている。
	そなえ館おぢや震災ミュージアム	547.8㎡	博物館	中越メモリアル回廊推進協議会	社団法人中越防災安全推進機構	●			●		● (復元保存)		●		●	<ul style="list-style-type: none"> ・地震を疑似体験し、発生から復興までの月日をたどることで防災意識を高めることを目的としている。 ・地震発生後、3時間後、3日後、3ヶ月後、3年後の小千谷の様子がわかる展示や、地震動を体験できる施設、また、屋外における防止学習「キッズ防災キャンプ」等、体験学習型のプログラムが多く整備されている。
	やまこし復興交流館	1,007.97㎡	博物館	中越メモリアル回廊推進協議会	社団法人中越防災安全推進機構	●	●	●	●						●	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が経験したことを住民の証言を中心として、中越地震を振り返るとともに、山へ帰ってきた住民の今を伝える拠点施設。 ・展示には、プロジェクションマッピングによる地形模型シアターがあり、被災者の証言映像、中越地震の概要を説明する映像資料がある。 ・一部実物資料を使った仮設集会場も再現している。

基礎情報						機能										設置の意図・経緯	
						アーカイブ					遺構・モニュメント			レクリエーション機能	ソフトコンテンツ		
災害名称	施設名称	施設規模	施設の種類	事業主体	管理主体	文献・写真・パネル資料	当該災害以外の資料	資料の収集	映像等デジタル資料	WEB等による情報発信	遺構	モニュメント	碑	公園緑地広場	語り部、セレモニー等のイベント		
関東大震災(1923年(大正12年)9月1日)/太平洋戦争(1945年(昭和20年)8月15日終戦)	横綱町公園	2.0ha	都市公園(風致公園)	東京市	公益財団法人東京慰霊協会	●	● (東京大空襲に関する資料)	● (寄贈された場合には受け入れることができる)				●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都慰霊堂: 関東大震災の遭難者の霊を供養するために設置された。東京大空襲の犠牲者である一般戦災者の霊も安置している。 ・東京都復興記念館: 東京を復興させた当時の大事業を記念するために設置された。 ・東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑: 平成13年に建設された。 	
北海道南西沖地震(1993年(平成5年)7月12日)	奥尻島津波館	施設: 延床面積1,347㎡	博物館	奥尻町	奥尻町	●			●			●	●			<ul style="list-style-type: none"> ・設置の意図は、奥尻島に大きな被害をもたらした北海道南西沖地震の災害の記憶と教訓、そして全国から寄せられた復興支援への感謝を後世に伝えることとしている。 ・テーマ別に7つの展示スペースを設け、災害の様子と復興までを伝えている。 	
伊勢湾台風(1959年(昭和34年)9月)	伊勢湾台風記念館	延床276㎡	記念館	桑名市	桑名市	●			●			●	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢湾台風などの災害を忘れず、防災意識を高めるために建設された。 ・台風等の災害記録、河川事業情報の提供、市民の防災意識の高揚を図るとともに、長島町の町並みや雄大な伊勢湾を見渡せる展望施設として利用されている。 	
雲仙普賢岳噴火災害(平成2年11月平成噴火・平成8年噴火終息宣言)	雲仙岳災害記念館	敷地面積: 6.0ha 延床面積: 5,940㎡	博物館	長崎県	財団法人雲仙岳災害記念財団(指定管理)	●	●		●			●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ・雲仙普賢岳噴火災害の脅威と教訓を学習・伝承する施設で、水無川流域一帯等の「火山観光フィールドミュージアム構想」の中核施設である。 ・見て触れてリアルに体感しながら、わかりやすく学習できる日本で唯一の「火山体験ミュージアム」として整備された。 	
	雲仙普賢岳資料館	延床面積約150㎡	資料館	国土交通省	国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所	●			●			●		●		<ul style="list-style-type: none"> ・普賢岳災害や、直轄砂防工事の概要、効果、進捗状況等、島原半島の復興情報の発信を行うことを目的としている。 	
	大野木場砂防監視所(愛称: 砂防みらい館)	床面積約1,600㎡	監視所、博物館	国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所	国土交通省九州地方整備局雲仙復興事務所	●			●								<ul style="list-style-type: none"> ・雲仙普賢岳における火山砂防工事の安全確保のため、不安定な普賢岳の溶岩ドームの挙動等の監視所、非常時における工事従事者等の緊急避難場所及び砂防えん堤などに蓄積した土砂を緊急的に除去する必要が生じた場合に使用する無人化施工機械の操作所が設置されている。 ・火砕流や土石流による噴火災害の現場であり、また、無人化施工技術を駆使する砂防工事を間近で観察することが出来る貴重な現場となっている。 ・日本で唯一の火砕流被災遺構である旧大野木場小学校舎に隣接しているため、火山防災意識の啓発等のために効果的な利用ができる。 ・工事関係資料や火山防災関係資料を展示し、火山砂防学習や国内外の技術者が砂防の先端の技術を見学するための施設として活用されている。
	かどわき歴史災害記念館	-	博物館	南島原市	南島原市	●			●								<ul style="list-style-type: none"> ・平成2年11月17日に始まった雲仙普賢岳の噴火活動の活発化により、平成3年9月15日に発生した火砕流で普賢岳のふもとにあった大野木場小学校が焼失したため、大野木場小学校の歴史を中心に、噴火災害時の地域の人々の生活の様子や復興の様子を記した写真や書物(印刷物)の展示がはじめられた。また地域を守る砂防施設について、子どもから大人まで学習できる場となっている。
	深江埋蔵文化財・噴火災害資料館	243㎡	資料館	南島原市	南島原市	●	● (地域の文化財関係資料等)										<ul style="list-style-type: none"> ・市民の埋蔵文化財への理解と周知を図り、発掘調査等によって得られた成果を広く一般及び学生の利用に供するとともに、噴火災害を風化させないための伝承施設として設置している。 ・現在は、噴火災害資料のほか、地域の文化財と合わせて展示している。